

女權史卷頭の二女性

永代 美知代

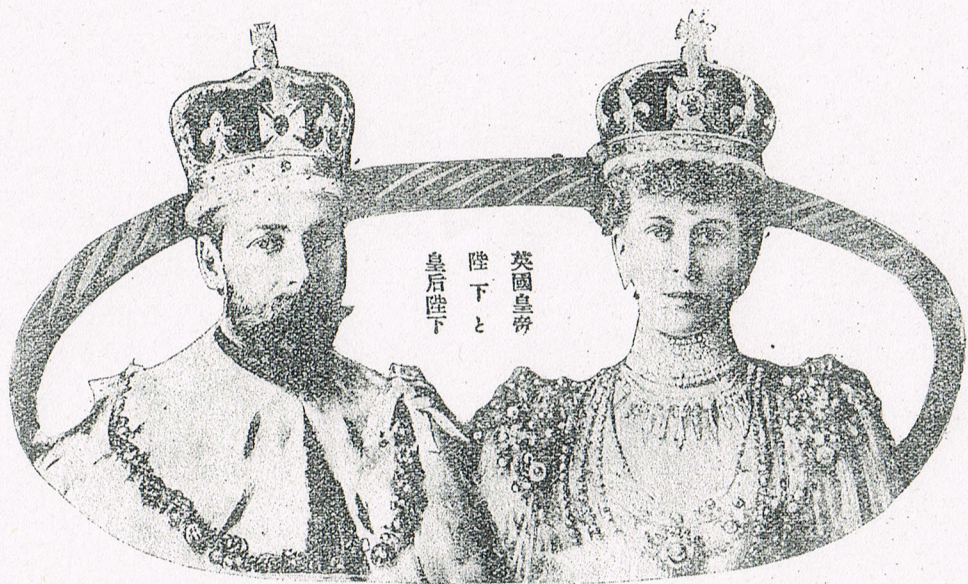
一 英國皇后マリー陛下

皇后、皇帝に向つて宣はく――

「煙草をおすひ遊ばすな！

お酒をお飲み遊ばすな！

俱樂部の婦人日にお出かけ遊ばすな！」



英國皇帝
陛下と
皇后陛下

最高の尊貴に對しても、絶對の盲目になり得ない倫敦上流社會の人々は、英國皇帝陛下が、全英國で一等女におやさしい方であらせられると云ふ事實を、底の底まで心得て居ます。その陛下の御容子は、まるで法定の保護者に連れられた子供のやうに見受けられる。全くこのお二方の健康の相異は、皇后の皇帝に對する、あらゆる態度の表象であります。マリー皇后は皇帝にカルタを禁じ、乗馬を禁じ、流行の衣装を着飾つた婦人が宮廷に立ち入る事を禁じ、強い煙草も召上つてはならぬ、飛行船にお乗りになつてはならぬ、夜の空氣にお當りになつてはならぬ、騒々しい晩餐會にお列しになつては不可ないと、すべてこれらを差止められます。

皇帝の唯一の娛樂機關として建てられてあるマールボロー、クラブの婦人日に對しても矢張りこの禁止の網が張られてある。このクラブはマールボロー館の地續きに、皇帝がまだウエールスの公子であらせられた時分に建てられたので、皇帝が此世に在つて出入りされるたつた一つのクラブであります。

最近に一週一夜づゝこのクラブで婦人日が開かれ、クラブ員は各々その夫人なり、女の友達なりを連れて晩餐を楽しみ、カルタに耽る事を許されるやうになつた。皇帝は甚くこの計畫を喜ばれた。併し一度これが皇后の耳に入ると、忽ちその威力あるおみ足が、折角の計畫を蹂躪りました。

「直ぐおよし遊ばさなくてはいけません。さう云ふ事は兎角男女の風儀を紊します。下らない娘達と一緒にお坐りになつて、煙草を召上つたりしては、大英國皇帝としての威權が如何して保たれませう？」

止む事を得ないジョージ皇帝は、それとなく圓曲にクラブの新計畫をお拒けになつた。斯うした風に、皇后のお考が屢々皇帝の言行を改正せしめるのは、事珍らしくないのです。

殊に興味一層なのは、皇后が皇帝とその心友マー、エンド、ケリー伯爵夫人との交際を壓迫される事である。伯爵夫人は年も若く、楚々たる容姿を以て、常に交際社會の女王と仰がれて居る。この美しい夫人と席を共にして會話に耽けるのは、皇帝唯一のお楽しみのおやうに拜察されます。従つて皇帝を御招待申

上げる私宴などでも、其家の女主人公はケリー夫人を招く事を第一の心得として居ます。

皇后は夙にその親しい交際を知つて居られて、二人の會話が佳境に入りさうな時には、屹度御自身一人で皇帝と話をなされ度い風を示される。だが、伯爵夫人は飽くまで自分の權利を通して素知らぬ顔で皇帝と話し續けられる。

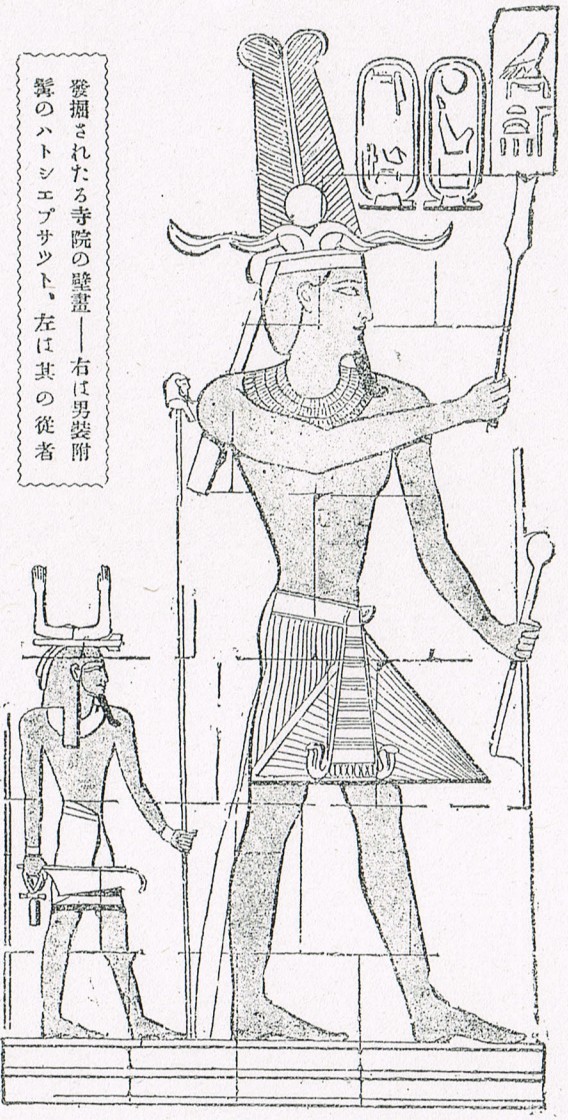
お若い頃の皇帝は、人に優つて煙草を御嗜好になつた。それも人一倍強烈なのをお撰びになりました。軍隊に在らせられた頃は、黒く輝く木製の古いパイプに香の高い煙草をお詰めになるのが、何よりのお楽しみでした。帝位に即かれてからは、食後々々に多量の葉巻をおとりになるのが、何よりの御馳走とされて居ました。その御習慣をお廢しになつた方がおよろしからう、そんなに召上つては御健康の爲めになりますまい、皇后は左様に申出でられたのです。

今や皇帝は極弱い紙巻煙草を、それも極少量に召上るばかりです。恐るゝ恰度子供が、何か悪戯をして、今にもとつ捕へられるのをビクついて居るかのやうな、おどろとした風で召上る。皇后は社會に向つては、世に煙草の煙ほど、自分を憐れま

すものはないと辯疏せられるさうです。偶然か暗合か、年若くして容色よき婦人達が、屢々宮中に於て皇后の御疎みを受ける。近くは、シャフネスベリーの伯爵夫人がその一例です。夫人は良人の階級が高いばかりでなく、ウ

エストミンスター公の妹として、おさく交際社會を凌ぐ勢力を持つて居られました。それが突然、宮廷での勢力を失った。婦人参政權運動にや、同情を表したからと云ふのは、或は表面の理由で、實はその人を魅する容色が、夫人の爲めに何等かの禍を作したのではあるまいかと、より〜に噂されて居ます。

世に云ふ女性美は皇后の御嗜好に適しない。體量何十貫、肩を張り、手を振る健康的な衛生美人が、獨りその眷寵を恣にするとの説を爲すものがある。要するに人を引きつけるに足る織弱女は、宮中の歡迎を受ける事は難かしいのであります。是も最近の事實ですが、英國の陸軍に雇はれた米人飛行家コチー大佐が、陛下の爲めに飛行機の説明を申し上げて、『陛下と御同乗の光榮を得たいものでござりまする』とお願ひ



發掘されたる寺院の壁畫——右は男裝附髻のハトシエプサット、左は其の從者

すると、『朕もそれに越した愉快はあるまいと考へる、併し飛行機に乗つたりしては皇后が喜ぶまい。』

皇帝のお答は斯うであつた。そして我が英國皇后陛下の權威

はこの場合、最も燦然として四邊を拂つて見えたと申します。

(右の一篇は近着の紐育サンデー、アメリカン紙の報ずる處です。)

一 古代 埃及の 女豪

四千年以前の婦人参政權實行者ハトシエプサット 大皇后 眞實の男のやうに髻があつた

世間に發表されました。その發見に依つて見ればこの女皇の一代は確に當時のバンカースト夫人たるに背かないと思ひます。女皇はその無價値な弟を排けて以來、男子の服裝をして、埃及統治の全權を握り、恐ろしく領土を擴張し、前古未曾有の大寺院を數多く建造して、種々の新政を布られました。

その大寺院の一つが發掘されましたが、その壁畫には女皇一代の偉業が極彩色で描かれてあります。中に女皇の父君たるサトモス第一世、第二世たる弟、第三世たる異母弟の像が埋もれて居ました。此處に注目すべきは男の像が三方に立つて居るに反し、女皇の像のみはその中央に坐して居る事でありませう。

王冠を戴いた女皇の像は、すつくり男の服裝で、器用なつけ髻がつけてある。發掘者の信する處では、恐らく當時の侍從長は女皇に向つて『皇帝陛下』と尊稱したであらうと云ひます。女皇は若い時から恰度今の婦人参政論者の口にするやうに、婦人の政治上の權利を認めて居られました。それで父王の死後當時の埃及の風習に従つて、その兄弟サトモス第二世と結婚されたのです。

併し、間もなく女皇は第二世王以上の實權を握られました。最初は副王としての權力を掌握し、次ぎには王を退隱せしめられた。そして埃及に於ける第一回の女王となられたのでした。發掘された寺院の壁に、この女王の徳を讃する種々の文字が記されてあります。

「埃及はかの女皇の爲めに、頭を低うして働くべく造られたり、女皇は神々のよき裔なり、其謀は勝れ、其命令は永遠なり。」女皇の忠實なる追従者は悉く埃及帝國の最高位に置かれた。執政の際には男裝して居られた女皇も、私宴の場合には華美な女裝を凝らして、女性としての快樂を十二分に味はれた様であります。寶玉と寶石とは測り知らぬ女皇の富を語つて居ます。墓穴の中からは金と寶石との恐ろしく大きな首飾りが無數に發掘されました。香料を入れた金の壺、その化粧臺を輝かした壯麗な鏡なども悉く今一度日の光を受けました。斯うしたものに據つて判じると、女皇はあらゆる人工を以て、その美を磨きもし、飾りもされたものと察しられます。

女皇は四千年前の明君でありました。殊に殖産興業と科學的事業に非常の興味を寄せ、自國に色ガラスの製造所を建て、盛んに製品を世界に輸出された。この色ガラスも今度の發掘物と共に四千年前の貴重品として世に紹介されました。

その後の埃及朝は女皇の墓所たる寺院を閉却しました。十九世紀の初葉になつて、漸くこの下にハトシエプサット女皇が横つて居ると云ふ事が解り、それが次第に近代科學界の興味を惹いて、遂に佛國の考古學者、エツアル、ナビール氏の一隊によつて發掘される處となつたのです。女權運動は今も昔も萬歳です。尤もその運動乃至行爲の、どの點までが永久の權威であるか、それは私達の懸案として、大に研究を要すべき事でありませう。